

国語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

※第二問は現代文または古文のどちらか選択

入試日程	大問	出典	難易度
2/3	第一問	村上陽一郎『科学者とは何か』	標準
	第二問 【古文】	『たなばたのほんち』	標準
	第二問 【現代文】	大内伸哉『AI時代の働き方と法』	標準
2/4	第一問	ヴァージニア・ウルフ、川本静子訳「伝記という芸術」『病むことについて』	標準
	第二問 【古文】	『うつほ物語』	やや難
	第二問 【現代文】	佐藤卓己「メディア社会で「自然」に生きるとは」『メディア社会—現代を読み解く視点』	標準
2/5	第一問	古田徹也『言葉の魂の哲学』	標準
	第二問 【古文】	『しぐれ』	標準
	第二問 【現代文】	熊谷晋一郎『リハビリの夜』	標準

●出題形式

すべて長文総合問題であり、基本的に五肢択一のマークシート方式（空所補充問題の場合は選択肢数が増える）である。第一問は現代文で解答必須問題であり、第二問は【古文】か【現代文】のどちらか一方を選択して解答する。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

現代文は近代以降の文章、古文は近世以前の文章である。漢文は出題されていない。

b. 出題内容

【現代文】

2022年度に続き、2023年度もほとんどが評論文を題材とした問題であったが、2月5日の第二問だけは随筆からの出題であった。ジャンルは、科学史、法制史、文学論、環境論、哲学などであり、多彩なジャンルからの出題といえる。総じて比較的論旨のわかりやすい文章が多く、設問の難易度も概ね標準であった。

【古文】

2022年度の出典が平安期の説話集と鎌倉期の歌論であったのに対し、2023年度は平安期の作り物語と室町期の御伽草子であった。文章量は、2月3日が約1340字、2月4日が約910字、2月5日が約950字と、2月3日だけが多かった。2022年度出題された歌論のような文章はなく、3日程ともストーリーのある文章ばかりであったので、読みやすかったと思われる。設問の難易度も標準的なものが多かった。

●問題の傾向

【現代文】

設問は、漢字、語句の意味、接続詞・副詞や語句の空所補充、傍線部の内容説明または理由説明、その他内容の理解を問う問題、内容合致（不合致）などである。設問数は第一問が10～11問（マーク数14～17）、第二問が11～12問（マーク数12～14）であった。出題形式はすべてマークシート方式（一部を除き五肢択一）である。

第一問の文章量は約3860字～5160字程度で、日程によりばらつきがある。設問内容は漢字の書き取り、語句・慣用語の知識を問う問題、空所補充問題（接続詞・副詞・語句）、内容理解に関する問題、問題文の趣旨などである。第二問の文章量は約3260～4610字程度。設問内容は、第一問と比べてあまり違いはないが、漢字問題がやや少ない。

中には、本文と同じようなことが書かれている選択肢を選ぶのではなく、本文中には必ずばり対応する箇所はないが、本文をしっかり理解したうえで妥当な選択肢を判断しなければならないような読解力を問うやや難易度の高い出題もあった。

【古文】

設問数は9～12問（マーク数12～15）で、2022年度と同程度である。設問内容は、単純な語義の問題は比較的少なく、文法、文学史といった知識問題と、解釈、内容説明など読解力を問う問題である。具体的な傾向は以下の通り。

- ・解釈の問題は、単なる傍線部の直訳ではなく、前後の内容を理解したうえで思考し、選択肢を選ばなければならない問題が多い。
- ・内容説明問題も、単に傍線部を訳していれば解答が見えてくるわけではなく、傍線部を訳したうえで、前後の文脈の中でどういうことを意味しているのかを判断する必要がある、やや難解な問題である。
- ・文法問題は、品詞分解、助詞の意味、係り結びの知識を問う内容であった。
- ・2022年度では（物語文の出題が少なかったため）主体や客体を問う問題は少なかったが、2023年度は登場人物のある文章ばかりだったので、省略されている主体や客体から敬意の対象を判断しなければならない問題が出題された。
- ・文学史の問題は、2022年度に引き続き3日程ともに出題されたが、細かい知識が要求された2022年度とは違い、標準的なものであった。

総じて、幅広い知識と文脈を正確に読み取る力、選択肢を丁寧に吟味する姿勢を要求する問題である。解答形式はすべてマークシート方式（一部を除き五肢択一）である。

●難易度**【現代文】**

2023年度入試は、抽象度が高い文章や難解な選択肢の出題があった2022年度とは異なり、総じて入試標準レベルであった。

【古文】

2023年度入試は、歌論という取り組みにくい文章が多かった2022年度とは異なり、総じて入試標準レベルであった。

国語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

【現代文】

●筆者のイタイコトをつかまえよう

評論の筆者は自分の意見（イタイコト）を読者に伝えるために文章を書く。しかし、それをそのままぶつけても誰も納得してくれない。そこで、論拠を挙げ、論理的に説明を加えて自分の意見に説得力をもたせようとする。入試の現代文は、その筆者のイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握できたかどうかを調べるために設問が作られている。よって、問題を解く際は、まず何がテーマ（話題）になっているのかを確認し、接続詞や強調語などを道しるべに筆者の論の展開を正確にたどり、最終的に出題された本文の筆者がイタイコトをしっかり把握するようにしよう。普段から新書レベルの読書を心がけ、ただ漫然と読むのではなく、各章・各節でイタイコトを意識しながら読む習慣をつけよう。問題集に取り組む際も同様である。

●幅広く国語の知識を身につけよう

椋山女学園大学では、第一問・第二問ともに、漢字や語句など、知識を問う設問も出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組んで、評論でよく使われるような語句などをマスターしておくといだろう。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、都度こまめに辞書や国語便覧を調べるなどして語彙力や知識を増やし身につけるようにしよう。漢字の問題集に取り組む時も同様である。また文学史が出題されているので、問題集や国語便覧を活用して、著名な文学者とその作品名、主義、流派などを覚えておこう。

●マークシート方式の問題に慣れよう

大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。ただ闇雲に問題文を読んで、何となく選択肢を選ぶのはよくない。問題文を読み、その文章のテーマが何で、どういう論理展開がされ、どのような結論（イタイコト）を導いているのかを把握したうえで設問に取り組むことができればマークシート方式の問題は選択肢を1つに絞れるようになってくる。解答に迷った時には、設問が何を問っているかを見直し、必ず本文に立ち戻り、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにしよう。また全体の設問量が多いので、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくといだろう。

●ややレベルの高い新書の読書を

現代文では抽象度の高いやや難解な文章が出題され、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような出題がある。普段からややレベルの高い新書の読書をするといだろう。

【古文】

●基礎知識の充実をはかろう

古文の問題も、単語や文法、文学史などの基礎知識を問う問題が多い。解釈問題ではかなり意識した選択肢が正解となる場合もあるが、ベースは基礎知識である。そうした知識の差が読解の正確さにも影響するので、まずは文法や単語の基礎知識を身につけよう。

古語については400～500語程度の単語帳などでマスターすること。重要古語のほとんどは多義語であるので、複数の訳し方ができるようにマスターしよう。そのためにはその語の語源・語感を理解したうえで訳し方の幅を知り、例文の中でふさわしい訳し方を練習することが必要である。

文法は用言の活用を基礎として、助動詞の接続・活用・意味・訳し方、助詞の意味・訳し方、敬語の種類・用法を押さえておくこと。「なむ（なん）」「らむ（らん）」「なり」「ぬ」「に」「る・れ」「し」など類出の識別問題にも慣れておきたい。文学史、古典常識についてもしっかり勉強しよう。過年度の出題から考えて、文学史はやや細かいことまで押さえておく方がよさそうである。

●一人で文章を読み解くことに慣れよう

基礎知識を身につけつつ、私立大学対策用の問題集等で実際の入試問題を知識を使って解く練習をしよう。問題文の中で学習した単語に出会い、その文脈での意味を考えたり、傍線部の中にある重要古語、助詞・助動詞、敬語に着目して選択肢を絞って問題を解いてみよう。解けなかった問題、間違えた箇所に含まれる単語や文法事項をもう一度辞書や文法書に立ち戻って確認しながら、基礎知識の定着をはかろう。また、問題集で出会った作品や設問に出てきた文学史事項や古典常識については、国語便覧を使って関連事項も含め学習し、理解を深めていこう。

●作品として味わおう

解釈の問題、内容理解の問題では深い読解力を必要とするものもある。文章を読む際には、単に語学的な分析（単に現代語に置き換えて訳す）のレベルでとどまるのではなく、その文章の中でストーリーがどのように動いているのか、どういう事柄が起こっているのか、登場人物がどんな心理状態にあるのかを読み取るように心がけよう。またセリフについても、その登場人物が「どういう意図でそんなことを言うのか」、「なぜこんな発言をするのか」まで理解しながら作品を味わい、深い読解力を身につけるようにしてほしい。